

～著作権・肖像権～

指導上の留意点

デジタル化・ネットワーク化の進展に伴い、音楽や映画などの違法ダウンロード・発信が容易になり、著作権の保護が非常に難しくなっている。著作物には、他人が無断で原則、利用することはできないよう法律により著作権が規定されている。また、個人の姿を無断で撮影・公開・使用されないよう主張できる肖像権がある。動画や写真などの投稿や掲載などで著作権や肖像権を侵害することがないように、基礎的な知識を身に付けさせる。刑事罰や損害賠償などの対象となる場合もあることを知り、著作権や肖像権の保護の重要性を理解させる。

各問についてのポイントと解答例

- 1 事例を読み、著作者の権利保護のために著作権法があることを認識し、私的使用のための複製は例外的に違法ではないとはいえ、著作権侵害（犯罪）にならなければよいのか、ならなくても倫理的に見てどうかをそのつど考え、行動することが重要であることを理解させる。

解答例

レシピ本が販売されている以上、写真撮影でも抜き取ることはよくない
 著者などに支払われるべき利益（報酬）が減り、犯罪を問われなくても損害賠償などの対象となる可能性がある
 著作者は経済的な被害がなくても嫌悪感をもつ可能性がある
 出版や販売に関わった企業などにも損害が出る可能性がある など

- 2 肖像権は個人の容姿を無断で撮影したり、それを勝手に公表したりしないよう主張できる権利である。法律的に明確な線引きはなく、罪にならなくても相手が嫌悪感をもつ可能性もある。事例のような行為を行うことに問題がないか考えさせ、写真をインターネット上に投稿すると完全に削除することは難しく、より強い権利侵害となる可能性があることを認識させる。人が嫌悪感をもつ行為をしてよいのか、インターネット上に投稿することの影響の大きさなどについて考えさせ、意見交換させるなどして、相手の意思表示に関わらず権利侵害の可能性を常に心に留め、倫理的な行動をとることが消費者市民として重要であることを理解させる。また、場合によっては肖像権侵害で訴えられることもあることを認識させる。

解答例

勝手に写真に撮られることや写真を勝手に公開されるのは嫌悪感があるから
 インターネット上に投稿されると見られたくない人に見られる可能性があるから
 インターネット上に投稿されると完全に削除できない可能性があるから など

- 3 設問 1② を踏まえ、教材 9 の 参考 を読んで著作権、肖像権の概要を知り、なぜこれらの権利が守られる必要があるのかを考え、自分の生活の中で意識し、権利を侵害しないように注意する。また、権利を侵害されたらその行為を行っている相手にやめるよう主張することが重要であることを認識させる。

解答例

著作権：他人が真似したものが売れると著作者の利益が減るため、著作者の利益が減り創作意欲をなくすのを防ぐため、オリジナルのものを真似されるのを防ぐため、創作による文化の発展を損なわないため など
 肖像権：知らないうちに写真を撮られるのは嫌悪感や恥辱感があるから、自分が写ったものを公開されると見せたくない姿や見られたくない人に見られる可能性があるから、一度公開されると削除しても誰かが保存し完全に消すことができないから など

- 4 設問 3 の解答を踏まえ、著作者の利益や文化的な発展、個人のプライバシーに配慮した行動について意見を出させ、他者や社会への影響を考えて行動する消費者市民としての視点が重要であることを認識させる。

解答例

著作者の利益を守るために海賊版などを買わない、違法なアップロード・ダウンロードをしない、自分以外の人やモノなどの写真や動画を無断で撮影したり公開したりしない、自分の権利侵害になりそうな場合にやめるように主張する など